

堂本彰夫

新 ID 問答

内なる対話

～「意味ある世間話」となるや、否や?!～

(総集版)

令和5年7月

○本「総集版」の刊行にあたって

「東シナ海眺望記」、「じのん逍遥記」と続いた「私の精神こころの放浪たび」は、一つの区切りを迎え、その後、それを引き継いだ形で、「堂本彰夫 I D 問答 新たに始まった、我（ら？）が『精神こころの放浪たび』?!」と題して、次なるスタートを切っていた。そして、令和3年1月に、その「総集版1」、令和3年11月に、「総集版2」を刊行した。そして、本「堂本彰夫 新 I D 問答 内なる対話～『意味ある世間話』となるや、否や?!～」（総集版）は、新しく始めた、その続編（①～⑳）を、再び総集したものである。

ただし、こうした形式（問答形）の論稿？は、ひょっとしたら、これで最後である?!いずれにしても、改めて、みなさんのご笑読をお願いする次第である。

堂本 彰夫

※上記ホームページの URL 及びメール・アドレスは、下記の通りです。
いつでも、気軽に、ご覧下さい！そして、いつでもご連絡、お便りいただければ、本当に嬉しい限りです！

ホームページの URL⇒<http://www.gakuyou.jp>

メール・アドレス ⇒gakuyou17@outlook.jp

目 次

- ① 「ゆ党」の躍進？に想う！そこにある暗示？とは何か？！
- ② 炙り出された「社会」の歪み、不都合？！翻弄される「正義（愛？）」、蔓延る「諦観（無常？）」？！
- ③ 「生」の二重構造？の中で、「協働」を求める人達がいる！そこにあるものは？！
- ④ 「古希」とは？！単なる通過点なのか？それとも、やはり、人生の大きな転換点なのか？
- ⑤ 単純な「ライフサイクル論」は不要？！だが、「ライフステージ」には目を向ける必要がある？！
- ⑥ 「総合知」への希求？！人は、何故、それを求めるのか？
- ⑦ 今、また、「ヒューマン（人間であること？）」に目が向けられている？！それは、一体何故か？
- ⑧ 人種（民族）、宗教、政治体制、そしてカネ？！人間（人類）は、これらを、如何に克服できるのか？！
- ⑨ 何かが変わってきている？！そして、それは、これまでとはまったく違った位相のような？！
- ⑩ 「流石に、こんなことまでは起こらない！」と思っていたことが、いとも簡単に起きている？！
- ⑪ 「いちやりば・ちょうでー」「てーげー主義（なんくるないさー）」は、生きるための「方便」？！
- ⑫ 改めて、国（家）というものを、どのように考えていけばよいのか？！
- ⑬ 「近代」について？！それを目指して、日本が歩んできた道は間違っていない？！
- ⑭ 「ブルシット・ジョブ Bullshit Jobs」（クソどうでもいい仕事？！）について
- ⑮ 「偉人」について？！「凄い人」ではあるが、一方で「普通の上等（人）」にも心が動く？！
- ⑯ 古代における「偉人」について？！その偉人（英雄？神？）には、歴史が示（or 隠）されている？！
- ⑰ 「多様性（論）」の陥穽？！改めて、そこには「統一（統合）性（論）」との真摯な向き合いが必要？！
- ⑱ 再び？「国（家）」、そして「戦争」について？！
- ⑲ チャットGPT！どこまで行くのだ？AIソフト（人工知能）！！
- ⑳ 一つの締め（最後？）？！私達（I & D）が、ここで「喋り合うこと」（内なる対話）の意味？！

①「ゆ党」の躍進？に思う！そこにある暗示？とは何か？！

I：ということで、今回から、新たに「内なる I D 対話～『意味ある世間話』となるや、否や?!～」ということにして、私とあなたとの遣り取りを続けていきたいと思いますが、まずは、どういうテーマからいきますかね？先号(前シリーズの最後)で出てきた「沖縄をどう思うか？」ということに関わって、何か話が出来たらいいなと思っはいるのですが、いかがですか？

D：純粋な(過激な?)政治談議は、私は、あまり好きではないので(ある意味申し訳ないので!)、それ自体は忌避したいのですが、そう言えば、もう大分前になりますが、先の衆議院議員選挙で、「ゆ党」と呼ばれる(揶揄されている?)、ある政党の動向(存在?)に関わって、少し思うところがありましたので、その辺を出し合ってみたいとは思いますがね！

I：確か、その「ゆ党」とは、『野(や)党』でもない、『与(よ)党』でもない!」「や」と「よ」の間?ということかと思いますが(誰が名づけたのかは知りませんが!)、かなりの躍進?で、その存在の意義が高まってきた?そういうことですよ?!また、例の「無党派層」が、そこに流れ込んだ?

D：そういうことですね!もちろん、その絶対数が驚異的に増えたということではないのですが、既存の?「野党」と「与党」の間に、その「ゆ党」が入り込み、それなりの支持を得た?そういうことですよ?!ただし、どこかの県の場合は、それとはほとんど無関係に、全体としては、従来通りの結果(一つの意外?を除いて!)となった?そういうことでもありますが...

I：ええ、確かにそうですが、いずれにしても、そうした状況(異変?)を、我々 I D としては、どのように見るのか?そういうことですよ?!従来、よく「保守(右)」と「革新(左)」という対立軸で、政治の世界が見られてきたわけですが、その辺りが変質してきている?!そういうことですよ?!

D：要は、現実的には、最早そうした対立軸は、ほとんど意味をなさなくなっているのではないかということですが、実は、私が、ここで取り上げたいのは、いわゆる「変化(革新)」というものは、もちろん「政治」の世界だけではないのですが、どういうメカニズム(力学)で生まれてくるのか?ということなのです!

I : 例えば、「教育」の世界ではどうなのかとか？そういうことですか?!

D : そういうことです！実際に、そうになっていたかどうかはともかく、人間社会には、その社会が有している価値とか慣行を守るという立場・価値観の人と、それらを改める（壊す?）という立場・価値観の人がいるわけで（意識や社会的行動として）、その意味では、ある種永遠に、その関係は続くものであるし、したがって、その相剋（政権交代含む）によって、そこでの現実が生み出される?!

I : しかし、よく考えてみると、無条件（永遠?）の「保守」とか「革新」とかというものはないですよ?ある場合には、「革新」が「保守（的）」であったりもする?!だから、どういうことを「保守」（「革新」）しようとしているのか？そこが問われるわけですが、誰（どこ）が、そのところを正しく受け止め、説明していけるのか？まさに、その部分が、最も難しい（厄介である）?!

D : まったくですね！ただ、その根っ子には、「社会悪（不正・差別・貧困等）」に対する対処の当否（「錦の御旗」としての「正義」?）が関わる?!最近の「多様性」とか「グラデーション」の主張（主座化）も、そのことと大いに関係している?!とにかく、今回の、かの「ゆ党」の躍進?は、どこかでそういうことを暗示している?!そう思ったりもします！あくまでも「やゆ（揶揄?）」の「ゆ」なのか、それとも、「ゆ（う）よ（猶予?）」の「ゆ」なのか？はたまた、「揺（ゆ）さぶり」の「ゆ」なのか？そこら辺も、注目すべきなのかもしれませんね?!まさに社会は、既にそういう位相となっている?!

（つづく）

② 炙り出された「社会」の歪み、不都合?! 翻弄される「正義（愛?）」、蔓延する「諦観（無常?）」?!

I : 折角、年が明けて、新たな気持ちで取り掛かろうとした、この「内なる対話」ですが、再び新型コロナウイルスの猛威（オミクロン株の急激な拡大）の前で、出鼻をくじかれた形になっていますね！しかし、このままずーと、沈黙を続けるわけにはいきませんか?!

D : そうですね！語ること（だけ）の空しさを、感じないわけではないですが、今の私達に出来ることは、それしかない?! しかも、そもそも、沈黙は、私達らしくないですからね?!

I : では、そういうことで、まずは、その新型コロナウイルスについてですが、幸い？このオミクロン株は、感染力は強いものの、それだけでは重症化には至らないというような分析結果も出ているようなので（あくまでも現時点での話ですが!）、これまでの経験／知見と、新たな対応（ワクチンのブースター接種や治療薬の投与等）によって、その被害（この場合は、社会・経済的なもの）は、最小限に抑えられるのではないのでしょうか?!

D : もちろん、そうであればよいのですが、今回は、感染力の強さによる感染者数の増大、しかも急激なそれが（どこの地域でも、過去最多となっている!）、予期せぬ事態（危機?）を迎えている！保健所の対応もそうですが、現在、特に医療機関や高齢者施設等におけるスタッフの感染や濃厚接触者の急激な増大が、本来ならば可能な治療や対応の遅れ（パニック?）を生んでいる?!

I : そうですよ！けれども、それらについては、症状の程度に応じて、これまでの対応を変えればよいということで（2類から5類への変更も含めて?）、隔離や待機期間の短縮とか、状況が変わりつつもありますよ?! それによって、実質的な医療／療養体制の逼迫（崩壊?）も防げる?! それは、今回のオミクロン株の特性によるもので、一面、不幸中の幸い? というところかもしれませんかね?!

D : 確かにね！とは言え、そうした対応は是非行われて欲しいのですが、一方で、これまで見えていなかったものが、これをきっかけとして（偶然にも?）見えてきた?! ある意味、見たくなかったものが見えてきた?! むしろ、私は、今回は、そのことが気になった? というところでもあります!

I : 例えば、それは、かの「水際対策」においてですね？いくら空港等で、出入国の管理を厳しくしたところで、自国の？米軍基地では、まったく、そのようにはなされていなかった?!そこから、オミクロン株が流入した?!それが、急激な拡大の発端となった?!そういうことですよ?!何とも情けない話ですが、そういう状況（関係）が、一方で、厳然とある?!

D : そうですね！確かな、ある種の「社会」の歪み、不都合が、そこに炙り出されてしまった?!そういうことかと思いますが、しかし、それは、ほとんどが、「やり場のない怒り」、「どうしようもないもの」となっている?!まさに我々は、そうした状況（関係）の中で生きている?!かの「拉致問題」、「領土問題」等も、まさにそういう状況（関係）の中で浮遊している?!

I : 本当は、こうであって欲しいと思えるものが、実際には、そうっていない！ならない！何とも歯痒い（悔しい！）ことですが、だから一方で、仕方がない！であれば、可能な限り見たくない！そういうことにならざるを得ない?!しかも、それを、大きな声では言えない？そういう意味では、我々は、「正義（愛?）」と「諦観（無常?）」の中で生きている?!そうとも言えますよね?!

D : 私の言い方では、現実の生活には、「生」の二重構造（ジレンマ?）がある?!そこでは、「正義（愛?）」が翻弄され（時には対立する?）、「諦観（無常?）」が蔓延る?!それが、我々の「生」なのではないか?!もちろん、それを超克しようという動きもあります（先号の「ゆ」のように?）?!そこに、何らかの突破口、具体的で、実現可能な解決への道を探し出そうという思いや行動のことですが、それにしても、単なる「正邪／善悪」（の主張）だけでは、何ともならないということです?!

（つづく）

③「生」の二重構造？の中で、「協働」を求める人達がいる！そこにあるものは？！

I：先号(②)では、『社会』の歪み、不都合」の中で、『正義(愛?)』と『諦観(無常?)』が浮遊している?!そして、そういう意味での『生』の二重構造?」が出来上がっている?!そういうことを話したわけですが、しかし、そんな中でも、自らの思いと行動で、黙々と、明るく前向きに仕事・活動が続いている人も多いですよ?!それが、救いでもあると…?!

D：確かにね！生きる糧(生計を立てる、家族を守るということも含めて!)の仕事・活動ということであれば、それはそれで、ある意味当然ではありますが(「生きる」ということは、そういうことでもある?)、そういう中で、今の(これまでの?)社会はおかしい?こういう社会であって欲しい(然るべきである!)、そうしたことを思いながら、仕事や活動をしている人達がいる！

I：かなりの上から目線ではありますが、そういう人達が、現実の過酷な状況を、たとえ少しではあっても、良くしようとしている?!そこに、声援を送りたい!そういうことでもありますよね?!

D：もちろん、そういうことですが、実は、そこに、二通りの様相(顔?)が見える?!全体としては、それはそれでよいのですが、今の私からすれば、そのことに対して、かなり複雑な受け止め方とならざるを得ない?!一方で、そういうことも思い始めているのです！

I：え?多少驚きですが、一体、その「二通りの様相(顔?)」とは、どういうことですか?

D：説明は難しいのですが、所謂社会的な仕事・活動において、その人達は、一体何(誰)のために、それを行っているのか?結局は、自分のためにやっている?収入・収益はもちろんですが、その人の見栄や自己顕示欲で行っている?そんな様相(顔?)もあるのではないか?そういうことです?!

I：確か、そのことは、かの「ボランティア活動」の話にも通じる気がしますが、「自分のためにやっている」ということ自体は、ある意味正解であり、それは、むしろ歓迎されるべきことではありませんか?!「人のため」「社会(地域)のため」というようなことは、逆に、美辞麗句過ぎる?!

D：それは、自らの、「人間としてのプライド／自己の尊厳のなせる業」ということかと思いますが、しかし、私が思っていることは、そういうことではないのです！多くは、仕事や活動をやっている中で、徐々にそうなっている?!しかも、本人は、そうなっていることに、ほとんど気がついていない?!ある意味、周囲に寄せられている（踊らされている?）?!そういうことにもなっている?!

I：それは、あたかも「タレント」や「スター（カリスマ?）」気取りになっているということでしょうが、それはそれで、良いのではないですか？犯罪とか、全くの私利私欲に走ってなければ…?!

D：もちろん、そうですね！それが、ある意味「生身の人間」の、偽らざる生でもありますからね?!だから、例えば、それが、かの「YouTube」の世界を創り上げてもいる?!そして、それが、もう一つの現実（リアリティ）を創り上げてもいる（ここでは、新たな「エンターテインメント」、そして、「ビジネス」の世界も創出されている!）?!そういうことでもあるのでしょうか?!

I：それが、まさに「目の前にある『社会』の歪み、不都合の中での、『正義（愛?）』と『諦観（無常?）』の浮遊」を超克しようとする「もう一つの生き方」、ある意味では、「一人の人間としてのプライド／自己の尊厳のなせる業」としての、新しい「社会参画」の姿なのかもしれませんね?!

D：確かに、そういうことなのかもしれませんね?!そうでなければ、いつまで経っても、自分という「かけがえのない存在」をアピールできない?!しかし、それは、かなりの「玉石混淆」となる?!そして、「落とし穴」も生まれる?!だから、私としては、そんな中でも、自分を見失わず、あるべき社会の姿を求め、そこで必要な「協働」に向かって進もうとしている人達に、声援を送りたい、支援もしたい！そういうことなのです！もちろん、微々たる声援、支援ではあります?!

(つづく)

④「古希」とは?!単なる通過点なのか?それとも、やはり、人生の大きな転換点なのか?

I : 話は、がらりと変わりますが、私達は、いよいよ来月某日に、いわゆる「古希」を迎えますよね! Dさんは、この「古希」について、どのように受け止めていますか? 私は、ありきたりですが、そして、多少? 矛盾したような言い方になりますが、一つの、単なる人生の通過点でもあり、一方で、やはり、それは、人生の大きな転換点でもあるというように思っているのですが...

D : 確かにね! 矛盾はしているようですが、私も、そのどちらもあるような気がしますね! まあ、簡単に言えば、人それぞれということでしょうが、例の「還暦」の時もそうであったように、意識した割には、その日は淡々と過ぎ去ってしまいましたよね?! もちろん、仕事(社会的立場)の上で、そうならざるを得なかったわけですが、実は、その仕事(社会的立場)が、そのことを忘れさせた? そういうことですよ?! 尤も、それは、Iさん、あなたの状況でしたけどね?!

I : 正確に言えば、そういうことになりますが、いずれにしても、今回は、やはり、そこには、何か「覚悟」みたいなものが求められる? そして、それが、人生の大きな転換点ということになる? そういうことですかね?! 例えば、それは、懸案の? 「禁煙」であったりする?!

D : ほとんどの人はともかく、あなたのような人にとってみれば、それも、実は、大きな転換点の一つでしょうね?! 自らの意志(覚悟?)ということであれば、なおさらです?!

I : ということは、そこに生じる意志(覚悟?)の中身(緊急度?)の問題ということですかねえー?

D : しかし、もちろん、それ自体は、「還暦」においても然りであり、医者や身内(奥さん?)からの忠告を無視?して、結局10年の猶予を自らに課した? そういうことになるのでしょうか?! ただし、当然、体(臓器)への悪影響は、この10年間では計り知れないものとなっている? とは言え、そんなことは、ここで言う意志(覚悟?)とは、ほとんど無関係である?!

I : 誠に耳が痛い話ですが、その通りでしょうね! ただ、私が、今回、ある

意味幸いにも？言えることは、そうした身体的な問題はもちろんです（多々ある！）、いわゆる精神的な問題が、より大きいのではないかということですか?!例えば、自分は、何のために生き（延び）ているのか？とか！

D：確かにね！そういう意味では、「古希」というものは、一部の例外を除いて（政治家等？）、その人の社会的な役割（役職とか立場）が無くなっている？あるいは、俗に言う「現役」というものから、完全に立ち退いている？だから、自らの生きる意味とか役割、あるいはやりがいとかいうものが、ほとんど見いだせない？極端に言えば、ただ生きているだけ?!

I：それが、特に、我が国の、これまでの男性の生き方によく当てはまる?! 「ぬれ落ち葉」とか、「わしも族」とか言われましたけど、ほとんど奥さんに支えられて（くっ付いて）生きている?!そういうことですね?!そんな喜悲劇は、今でも枚挙に暇がない（ただし、それさえも叶わない人もいる!）?!

D：まあ、そういう中で、辛うじて？地域の中に入り、いわゆるボランティア活動とか、地域の世話役等を引き受けて、そうした社会的埋没を回避している人もいるわけですよね?!一面では、華麗なる？地域デビューということですが...そしてまた一方では、趣味の世界に興じる人もいます?!

I：そんな中で、そうしたものとは少し違う？社会的な関わりを保持している人もいます?!私達のように、パソコンを使って、情報（思い）の交流や発信を続けている人達のことですが、それもまたよい?!

D：そういうことですね！そういうことにしておきましょう（何か、自分達の今を、すべて肯定しているようですが?）?!それが出来るのが、この「古希」の前後？そんな気がしますからね！要は、まさしくこれから始まる新たな老後での、自分なりの生き方を意識（覚悟?）し、そのあり様を見つめながら、生きていく?!その後押しをするのが、「古希」の意識（覚悟?）だということですね?!

（つづく）

⑤ 単純な「ライフサイクル論」は不要?!だが、「ライフステージ」には目を向ける必要がある?!

I : 先だっては、私達が迎える「古希」について話をしたわけですが、改めて考えてみますと、そうした、人生における大きな転換点というものは、実は、多種多様にあるということになりますよね?!

D : まさに「誕生」から「死」に至るまで、それこそ多種多様にあるということですよ（一時期脚光を浴びた、R.J.ハヴィガーストの「ライフサイクル（発達課題）論」は、それを踏まえた学習論であった!）!ただし、それは、決して一律ではなく、その様相は、多彩なものと言えますよね（特に近年では、そのことが顕著?→「多様性の時代」!）?!

I : だから、単純な「ライフサイクル（発達課題）論」は不要になった?!したがって、そういう意味では、それに基づく「ライフモデル」的なものは、個々人にあっては、ほとんど意味をなさなくなっている?そういうことにもなっている?そういうことですかね?!

D : そういうことですね!単純に言えば、人の人生というものは、みな、それぞれ違うということ、多様な生き方があるということ!だから、それを、みな平等に認め合おう!そういうことでもありますね!それはそれでいいと思いますが（絶対的な進歩でもある?）、しかしながら、そこには、誰にも選びようのない、生命（生物）としての「生命段階」（一般的に呼ばれている「ライフステージ」とは違う!）というものがある?!やはり、そこには目を向ける必要がある?!そういうことですね?!

I : それは、どういうことですか?

D : 人の一生、つまり、生命（生物）としての寿命と言えるのかもしれませんが、誰にも、それは、同じようにある（ある意味一律にある?）?!そういうことを言っているのですが、そこには、病気や事故、あるいは事件や災害被害、そして、戦争等によって、その「生命段階」を全うすることが出来ない人がいる!それを、「多様性」ということで片付けることはできない!そういうことです!

I : 確かにね!ただし、それは、先ほどの「多様性」で片付けられてはいない?!

D：要は、誰しも、生命（生物）としての命（寿命）というものがあり、それに向かって、確実に進んでいっている！つまり、「死」というものが、その先に待っている！残念なのは、その「死」を、誰もが享受出来るはずの「生命段階」に反して、早く迎えてしまう人がいる！自らの「生命段階」を、途中で終わらざるを得ない人（自死者も含めて！）がいる！そういうことです！

I：そうですね！そういうことも事実ですよ！そして、そこに、「運命」とかというような言葉（媒介項）を入れ込んで納得しようとする?!それは、人間の哀しい知恵?でもあるわけですよ!?

D：もちろん、そういうことでもありますが、それは、あくまでも第三者（生者）の言い草（論理）であり、目の前の死を受け入れたくはない、その間際の人にとっては、苦しみ（悲しみ）以外の何物でもない?!私には、そのように思えます！

I：確かに、無理やりそこに連れ込まれている人にとっては、そうなのでしょうね?!

D：こうしたことを、今を生きている、少なくとも、近いうちの寿命を宣告されていない人が、言葉でどんなに飾ろうとも、その人達の苦しみ（悲しみ）を取り除くことはできない！だから、その場面や関係から逃げ出したいとも思う?!それが、何とも辛いのです！

I：そうですね！とにかく、通常の「生命段階」に反した死を迎えなければいけない人の苦しみ（悲しみ）は、とてつもなく切なく、無念でもありますよね！とりわけ、若い人のそれは！

D：だから、神や仏をみる?!宗教を必要とする?!そんなことは、究極の不遜であると知りつつも?!

※こんなことを書いている、今この時も、多くの若者が、受け入れたくはない「自らの死」に直面している！我が近くにも！そして、かの国々にも！何という「不条理」なのだ！

(つづく)

⑥「総合知」への希求?!人は、何故、それを求めるのか?

I : そうですね、かの「知の巨人」と言われた、ジャーナリストの「立花隆さん」の追悼番組（「見えた 何が 永遠が ～立花隆 最後の旅～」）が、過日（4/30、1周忌）、NHKで放映されていましたね！久しぶりに見応えのある番組でしたし、私は、珍しく、メモも取りましたよ！

D : そうですか！メモも取ったのですか！一体、何が、メモ嫌いなIさんを、そうさせたのでしょうか？余程、心に残るものが、そこにはあったのでしょうかね？

I : いやいや、よく分かりませんが、と言うよりも、私の独断と偏見ということでしょうか、最近よく考える（と言っても、浅薄ではある？）、人間の「知のあり様」？そういうものへの関心（こだわり？）が、そうさせたのではないのでしょうかね？そして、まさに、その極致？が、立花隆さんの言動であった?!ただし、彼の著書自体は、ほとんど読んではいませんので、大きなことは言えませんが?!

D : そうですか！それは、ちょっと複雑ですね！ですが、事実なら、それはそれで仕方がないですね！そもそも、Iさんは、他の人の著作もあまり読みませんからね！尤も、私も、そうなのですが！（笑）

I : まあ、それはともかく、ネット情報では、「去年の4月、『知の巨人』と呼ばれた立花隆さんが亡くなった。『人間とは何か』を生涯問い続けた立花さん…。ディレクターが最後の思索をたどる。宇宙、分子生物学、がんなど様々な領域を渡り歩き、『人間とはなにか』という問いに向き合い続けた生涯だった。立花さんは死に際して、膨大な蔵書や資料を全て捨てて欲しいと言い残していた。知の巨人は、なぜ『無』に帰ろうとしたのか。また『人間とは何か』という問いに答えはでたのか。17年間ともに番組を制作してきたディレクターが、最後の思索の旅を追う。」とありました。

D : なるほど！何とも魅力的な話ですね！ということは、「知のあり様？」とは、結局は、「人間とは何か？」ということになる?!そういうことなのでしょうかね?!実は、不遜にも、私も、そのように思い始めているのですが（本当です!）、やはり、それは、万人の行き着く先なのでしょうかね?!

I : そんなことは、私の口からは何とも言えませんが、最も興味をそそられ

たのは、番組では、彼の「知」を「見当識」と言っていました（本人が、そう表現していたのであろう？）、一人の人間の知には、当然限界があり、その「知」は、あくまでも、その当人の認識（「見当識」）に過ぎない！しかし、その自らの「知」（「見当識」）の先には、必ず、他の「知」（「見当識」）との「境界（接点？）」がある？！

D：「見当識」？！初めて聞きましたが、どんなに詳しく知っても、それは、所詮、その人の「見当識」でしかない？！だが、その向こうには、必ず、他の「知」（「見当識」）との「境界（接点？）」がある？！そこで、人間は、それらの「知」（「見当識」）の「総合化」を図ってきた？！人間の知（歴史）は、それによってつくられてきた（これからもそうである？！）！そういうことであろうか？！何という壮大な「知」の理解なのか？！そして、冷静（謙虚）さなのか？！

I：「人間の限りある命は単独であるわけではなく、いくつもの限りある命に支えられて、限りある時間を過ごしていく。それは周囲に支えられて存在するという意味において、『いのち（知）連環体』という大きな輪っかの一部でもある。そして、そういう連環体が連なって、大いなる『いのち（知）連続体』を成している」！それが、まさに「総合知」？！そういうことらしいのです？！

D：要は、「周囲に支えられて生きる『いのち』」！その『連環体』の一部としての人間。その『いのち連環体』が連続することでつながってきた『いのち（知）連続体＝人類の歴史』！彼は、そうした、我々がふだん知覚し得ない大きな時間を見ていたのではないか？そうとも言えるでしょうが、最後に、そこに、例の「A I」が、どのように絡んでくるのか？詳しいことは、まったく分かりませんが、実は、その辺もまた、興味が沸きますよね？！

（つづく）

⑦ 今、また、「ヒューマン（人間であること?）」に目が向けられている?!それは、一体何故か？

I：ところで、最近、期せずしてと言いますか、ふと気がついてみますと、「ヒューマン human」（人間であること?）という言葉や言われ方が、あちこちで見聞されるように思うのですが、どうですか？

D：確かに、そう言われれば、過日のNHK番組だったと思いますが（4/22放送）、「ヒューマン・エイジ」（人間の時代）とか、そして、その後の「ヒューマニエンス humanience」（人間の科学：「ヒューマン」と「サイエンス」の合成語）とかいう番組を見れば、まさにそのように思えますね！

I：その過日のNHK番組ですが、それについては、「およそ6万年前、私たちホモ・サピエンスの祖先は、誕生の地・アフリカから地球全体へと広がる大冒険に乗り出しました。『出・アフリカ』と呼ばれる人類史上の大転換点です。その後、急速な進歩を遂げ、高度な科学技術を生み出すまでになった『人間』は、2022年3月、また新たな挑戦に乗り出しました。地球から6000万キロ以上も離れた『火星への移住』を目指そうというのです。まさに『出・地球』です。」と！

D：そして、「しかし同じころ、同じ地球の上で・・・人間の高度な技術が、戦争に使われて人間自身の命を奪い、あるいは環境を破壊し、地球の気候まで急速に変えつつあります。『人間』という生き物が、自分自身はおろか地球全体の未来をも左右する力を手にした現代。それは、『ヒューマン・エイジ(人間の時代)』とも呼ばれ始めています。行く先にあるのは、さらなる繁栄か、それとも破滅か。その答えを、壮大なスケールで探ります。」ということでしたよね！

I：「人間（人類）」が、いつのまにか、この地球を支配（破壊?）し、その結果、その地球自体の存続が危ぶまれている?そんな時代になっている?!「地球温暖化」とか、そういうことかと思いますが、ある意味、そういうところにまで行きついている「人間（人類）」の「不思議さ（不可解さ?）」、否、「危うさ」を、「科学」の面から解き明かそうとしている?そういうことでもありますよね?!

D：あの番組が、そういうところまで意識して作られていたのかどうかは、今のところ、私には分かりませんが、かつて、近世（→近代）を創り出した

「ルネサンス」（「再生」とか「復興」とかの意）では、「ヒューマニズム（人間中心主義）」ということが言われたわけですが、その人間（人類）が、この現代にあっては、あまりにも「人間中心になり過ぎて？」、その成果（正の部分）はともかく、一方で、その多大なる悪影響（負の部分）が、皮肉にも顕著となってきた?!

I：だから、その「ヒューマン human（人間であること?）」について、改めて（もう一度?）考えてみようということになった?!そういうことなのでしょうね?!

D：もちろん、人類史の大局?からすれば、そういうことも言えるのかもしれませんが、実は、その問いかけ（再問）は、今まさに世界を震撼させている、あの人物、あの国の動きとも関連させて見れば、まさに、人間（国）とは、何とも不確かで、不思議な存在なのか?否、はっきり言って恐ろしい?!

I：まさに、「ヒューマン human」であることとはどういうことなのか?そういうことを、俄かに、そして強烈に、今また、我々の人間社会に、その答を求めてきているということでもある?!絶対にやってはいけないことがある!そのことは分かっているはずなのに、やってしまう（った）!本当に、「人間（人類）」とは何なのか?そういうことになりますよね?!

D：もちろん、それは、ある特定の（特殊な?）人間（国）のあり様であって、普通の、そして、大多数の人間（国）には妥当しない?基本的には、その前提で、世界は動いているはずですよ?!だから、「集団脳（協力するということ!）」が意味をもつ?!であれば、何故、そうなる（った）のか?是非、そういうことも、その番組で取り上げてくれたらよいのですが（先号の「総合知」に通じる?!）?しかし、それは、直接的には無理ですかね（まだまだ、それどころではない?）?!

（つづく）

⑧ 人種（民族）、宗教、政治体制、そしてカネ?!人間（人類）は、これらを、如何に克服できるのか?!

I：さて、最近は、かなり壮大な（否、大風呂敷な?）テーマで話をしていますが、もう一つ、今、私を悩ませているのは、他でもない、あの国の、隣国への侵攻（侵略?）に関わって、そこで頻繁に出てくる「〇〇人」というようなことですが、何故か、複雑な思いをさせるのです?!

D：露骨に言えば、ロシア人とか、ウクライナ人とかというようなことかと思いますが、ある時期までは（しかし、これもある時期から!）、彼らは、「ソ連人」でした?!しかも、彼らは、双方ともに、確か人種（民族）的には、「スラブ人種（民族）」ですよ（ただし、使用言語だけでの話でもある?→インド・ヨーロッパ語族スラブ語派）?!だけど、彼らは、今は、まったく違った国（家）の人である!

I：まさに、そういうことなのですが、そうした「〇〇人」という言い方は、実際の、今ある国（家）という現実において、どのような意味合いをもつのか?そして、その国（家）というものには、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」というものが、密接に絡まっているわけですが、それが、いわゆる「国籍」ということを加えれば、そうした「〇〇人」という言い方は、さらに複雑なものとなる?!

D：おそらく、そこに住む多くの人々の価値観や生活様式（もちろん、その使用言語によっても?）は、ある特定の変わらないものということになりますが（→いわゆる「アイデンティティ」?）、人種（民族）的特徴、特に、目に見える身体的特徴（言い換えれば、遺伝子レベルでのそれ）も含めて、そうしたものは、その人が、どこの国（家）に所属しているのかによって、その「〇〇人」という言い方は、複雑な様相を帯びてくるということになりますよね?!

I：そういう意味では、私達の、この「日本（国）」という国（家）は、そんなに複雑ではない?!以前、我が国が「単一民族国家」だと言って、響きをかかった政治家もいたようですが、表層的には、そのように見えなくもない（本当は、そうではないのだが!）?!要は、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」という点で、使用言語とかも含めて、一つの国（家）としてのまとまりを有してきた?!

D：しかし、そこに、まったく別次元の「国籍」とかというものを重ね合わせていくと、いかに、それらが、多様で、現実の、各々の人種（民族）のあり様、まさに「国家」のあり様ということですが、多くの国（家）においては、それらが、うまく結合していない?!否、流動的でさえある?!だから、そういうところでは、遥か昔から、それに関わって、幾多の戦争や侵略が繰り返されてもきた?!

I：かのユダヤ（人）とパレスチナ（人）とかが、そうですね（他にも沢山ある!）?!また、かつての「ドイツ」や「ベトナム」も、そうでしたよね（まだ一つ、隣国には、それが残っている…）!

D：さながら、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」は、一つの国（家）の共有の存立基盤であったわけですが、それが、かなり変質してきている?!極端に言えば、その三つは、必ずしも、一つの国（家）の共有の存立基盤とは言えなくなった?!しかも、今、そこには、「政治体制」という点で、大きく二つの国（家）群があり、そこには錯綜した現実がある（そこに不整合エネルギーが蓄積されている?）?!

I：そういう意味で、人間は、「国（家）」という形（ある種の装置 or 約束事?）を、「人種（民族）」「宗教」「政治体制」という基盤で創り上げてきたわけですが、しかし、それは、あくまでも「装置 or 約束事?」であるわけですので、その基盤のあり様が変わったら、その様相も変わる?!

D：であれば、人間は、これまでもそうであったように、これからも、それらを、如何に克服できるのかということになると思いますが、「人種（民族）」や「宗教」は、ある意味普遍ですので、問題は「政治体制」となってくるのでしょうか?!だが、そこに、「カネ（経済）」が絡んでくるので、さらに複雑となる?!まさに、「カネ（経済）」が、豊かさ（幸せ?）の源泉ということでもあるのですが、やはり、人間は、そのことを、長い歴史の中で学んだということでもあるのでしょうか?!

（つづく）

⑨ 何かが変わってきている?!そして、それは、これまでとはまったく違った位相のような?!

I : 気がついてみると、この間、こちらの方でも随分と沈黙?してしまいましたが、先号(⑧)では、「人類(民族)、宗教、政治体制、そしてカネ?!人間(人類)は、これらを、如何に克服できるのか?!」ということで、それらに関わる「国(家)と〇〇人の関係」について話をしましたよね?!

D : もちろん、ここでの対話自体は、ほとんどがさわり(入り口論)であり、その言わんとするところが、正確に伝わったかどうかは、甚だ疑わしいのですが、要は、そのことは、「国(家)と〇〇人の関係」の中で考えていかなければならない!何故なら、それは、所属している(国籍を有している)それぞれの国において実現(克服)されるものですが(もちろん単独ではできない!)、その「国民」が、必ずしも一様ではないからです(単純に、〇〇国=〇〇人という前提で話が出来ないということ!)?!

I : 例えば、それが、ウクライナ(人/国)であったり、ロシア(人/国)であったりするわけですが、その中で、人種的にはウクライナ人であるが、ロシア(国)人でもある!ロシア人ではあるが、ウクライナ(国)人でもある!しかしながら、当座(現在)の「国との関係」ということでは、そういうことが捨象される?国際社会、あるいはスポーツ競技等の中では、一つの〇〇国(の代表)、そういうことで、個々人が、その枠組みの中に包摂されている?そういうことですよね?!

D : そうです!つまり、そこでは、人種と国(籍)が一致していない!そして、それが拡大している(ボーダーレス化 or シームレス化が進行している?)?!もちろん、そうなる背景には、幾つかの理由があるわけですが(戦争、移民/移住、就労、婚姻等)、そのことが、むしろ当たり前の状態ともなっているわけですよ?!だから、〇〇(国)人ではあるが、「〇〇人(種)」ではない?!否、最早、そうした単純な括りでは、現実が成り立たない(2世、3世等ともなれば、なおさらである?)?!

I : ということは、極端に言えば、そこでは、「国(家)としてのあり様」が根本的に変わってきているとも言える?!単なる量的な変化ではなく、そこには、何か位相の転換のようなものが出現している?!ある意味で言えば、それは、「近代(国家)」という名の「共同幻想?」(国(家)についての約束事?)、それ自体を打ち破ろうとしているとも言える(もちろん、それはいい

意味でもある!)?!

D: だから、もし、そうであれば、そこにあった? 「自由」「平等」「博愛」、あるいは「民主主義」といった「近代(国家)の要素」の、言わば「盛り付け器」(ある種の装置 or 約束事?)、すなわち「国(家)」のあり様を変質させようとしていることになるわけですが、別言すれば、一つの「人種(民族)」「宗教」「政治体制」という基盤で創り上げられてきた、これまでの「国民国家」の内実(〇〇国=〇〇人という前提)が、変容を余儀なくされてきているということにもなるということですか?!

I: つまり、それ(「国民国家」)は、あくまでも「ある種の装置 or 約束事?(共同幻想?)」であるので、その基盤が変われば、そのあり様も変わる?! もちろん、それは、今回の某国の、隣国への侵攻(侵略?)、及びそこから派生してきた様々な問題(国家間の駆け引き等を含む)を見れば明らかなのですが、これまでの経験(約束事?)からだけでは対処できないような事態が、まさに全世界的規模で出来してくる? ということですよ(温暖化や新型コロナへの対応等の問題も、それに加わる?)?!

D: ということですね?! だから、例えば、「与党/野党」とか、「保守/革新」とかといったような、「従来は意味のあった?」対立軸(レッテル?)が、ほとんど役に立たない(どちらかの勝利とされとしても!)?! 何故なら、そこには、ここで言う「国(家)」のあり様、そのあり様を考える上での大前提、まさに「新たな(次なる?)国(家)観」あるいは、そこに必要な内実が真摯に問われる必要があるということですが、まだまだ従来通りの落としどころ? で終始している?! したがって、具体的で、有効な解決の糸口が見出されていない?! そういうようにも言えるのです?!

(つづく)

⑩ 「流石に、こんなことまでは起こらない！」と思っていたことが、いとも簡単に起きている?!

I : ということで、先号(⑨)からの続きともなりますが、これまでは、「当たり前だ!」「流石に、こんなことまでは起こらない！」と思っていたことが、いとも簡単に起きている?!本当に、「世界は、この国は、どうなってしまったのだ?」!そういうようにも言えるということですが、その象徴は、かの国の暴挙(他国侵攻)であり、それに関わる多くの国の対応状況だということですよ?!

D : そういうことですが、しかし、ただそれだけであれば、これまでも、信じがたい(許しがたい?)ことは多々ありましたよね!要は、最近、それが、度が過ぎている?!否、一線を越えている?!そういうことですよ?!しかも、一方では、ある事を当たり前だと思っていた(そのように思っられた?)人達(国)にとっては、もちろん、そのように思えるのですが、実は、そうではなかった人達(国)もいた?!それが、顕在化、先鋭化してきたとも?!

I : 考えてみると、そうした中で、多くの国、人種(民族)が滅び去った!そして、どこかの国、どこかの地域で細々と(あるいは包摂されて)生きてきた(しかも、ほとんどが、差別や弾圧を受けて?)?!そのように見えてくると、現在の国(家)というものは、大なり小なり、そういう歴史を有している?!否、そうした問題は、現在も、世界のあちこちで、内在化している?そういうことですよ?!

D : だから、そうしたことは、これからも(どこでも?)起こり得る(特に、親〇〇派とか、反政府勢力とかという存在がある国においては?)?!その最前線?が、今のウクライナということかと思いますが、国際法的には、れっきとした「ウクライナ人国(家)」であっても、実際には、そこに、親露派と呼ばれる(or そうでありたい?)人やロシア人(種)が厳然といる!それは、歴史ではなく、現在進行形でもあるわけですが、冷静に捉えれば、そこが、問題の本質なのではないかということですよ?!

I : 一応、これまでは、〇〇国と〇〇人が一致し、その限りにおいて、「国(家)」が成立していた?!もちろん、そこには、マイノリティ、「少数民族」の問題もありますが、表面上は、そうした問題がほとんどなくなった(あるいは、なくそうとしてきた?)国においても、そういう人達が、厳然と存在してい

る?!そして、「問題をなくしたくない」、あるいは「ぶり返したい?」とも思っている?!

D : もちろん、そうなのですが、ここから言えることは、ある特定の人種（民族）からなる「国（家）のあり様」を前提とするのではなく（ますます不可能となる?）、多様な人達（国民）が理解／協力し合って（人種／民族的なものだけでなく!）、新たな約束事（その最大のものが「憲法」!）の下に、その国を成立させる必要があるということなのではないでしょうか（実際には、難しいことですが!）?!つまり、そこに、国（家）としての「Diversity（多様性）」が必要となってくるということですか?!

I : しかし、それは、混乱を招く?否々、下手をすれば、国々あるいは国民間の、言わば「雑居ビルの存在」を加速化させることにもなる?!しかも、そういうことを口実?に、強いもの（国）が、それを我が物にしようとする?!現に、そういうことが起きている（このことが、今回の戦争?責任ということである!そして、少なくとももう一つ、危険な国がある!）!だからこそ、そこに、かの「近代の要素」、すなわち、「自由、平等、博愛」、そして、「民主主義」を、現実の「多様性」（の意義）を自覚した「国民」の力と責任の名において、次なる形へと転換させていかなければならない?!

D : そうということです!そこにおける「多様な国民」（人種的なものだけではない!）の価値観や利害得失（歴史を含む）を、いかに上手く調整していけばよいのかの、それこそ、高度で、賢明な政治、国（家）形成上のルールやしきみづくりが必要となるということです!それ故に、これまでのような、単純な二者択一（に追い込む形）ではだめだということ!既得権益とか、一方的な主義主張だけ（怨念や敵愾心?を含む）では、何も始まらない（変えられない?）!そういうことなのですか?!

（つづく）

⑪ 「いちゃりば・ちょうでー」「てーげー主義（なんくるないさー）」は、生きるための「方便」?!

I : さて、先の話（9と10）での、国（家）のあり様を考える時に、「おきなわ」の「いちゃりば・ちょうでー（行き会えば、皆兄弟!）」とか、「てーげー（大概?）主義（なんくるないさー!）」のことが、一方で頭を過るのですが、これは、いささか唐突過ぎ（文脈が違う?）でしょうか?!

D : 否、もちろん、表面的には、そのように言えるのかもしれませんが、ひょっとしたら、どこの地域、国でも、そういうことは関係してくるかもしれませんよ?!何故なら、それは、言わば、一つの（強いて言えば力の弱い?）地域として、国（家）として生きて（生き残って?）いくための「方便」、「苦肉の策」（現実即応主義?）と言えるからです?!つまり、そのことは、まさに人間（社会）の普遍的な行動原理であり、例えば、今現在の、ロシアによるウクライナ侵攻（侵略?）に関わる、当事国の人々・地域、そして、世界各国の動きも、そのように見ることができるといえることですか?!

I : 確かに、そうなのかもしれませんね?!しかるに、「おきなわ」の場合は、歴史的には、いわゆる「中華帝国（明/清）」と「日本（薩摩/徳川幕府）」の二（三?）重支配（冊封/被支配）の下での、自ら（琉球/おきなわ）の生き方、生きる術だったとも言えるのだと思いますが、自分達より強い力に対して、なるべく逆らわない、諍いを起こさない（侵略?されない）ような振る舞い、そして、ぎりぎりまで周囲の情勢を見極めながら、自分達の行動を決定するというような、ある意味での「したたかさ」、そういうことが、その根底にあったのではないかと思いますからね?!

D : そうですね?!ただし、そこには、地理的要因（亜熱帯性気候）、そして、多分?先住した人達にある「南方的要素」（時間の観念/約束事のルール等）の存在が、その背後にはあるかとは思いますが、要するに、そのことが良いとか、悪いとかというような、単純な、二者択一的な評価はできない?!つまり、無条件に「いい人（お人よし?）」でもなく、「楽天的（のんびり屋さん?）」でもない?!しかも、それが、ある時から、ある種の「怨念」を纏って生き続けている?!そういうことでもある?!

I : そんなことを言うと、根っからの沖縄人（「おきなわ」を愛している人?）から怒られそうですが、それなりに長年住み続けていると、そのようにも思えますよね?!特に、それは、第2次世界大戦での「捨て石」とされた記

憶が介在しているということでしょうが（とりわけ、復帰前世代の「期待と失望」は大きなものだった？）、その間の被差別感、「沖縄」と「日本（大和）」の間で揺れ動く自己のアイデンティティがそうさせた（すなわち「日本（人）」であるが、日本（人）ではない?!）?!

D：だとしたら、今こそ、その“おきなわ”の被差別感、怨念、それへの理解とか、その納得できる「対処法」（明るいヴィジョン？）が必要だとも言えますよね?!その逼迫した事例が、件の基地移設問題だと思いますが、けど、それが、ほとんどの為政者の視野には組み込まれていない（あるのだろうが、少なくとも選挙では、「賛成か、反対か」ということしか問題とならない?!）?!だから、いつまでも、隠微な対立や駆け引き（カネで済ませようとする?）で終始する?!そこが、どうにも歯痒い?!

I：そのことはまた、最近のネット上の、あるインフルエンサーの言動と、それに伴う議論にも、大いに言えますよね?!つまり、そこでは、その対立?の背景にある重要な部分が見えていない?!議論が、どのようにぶつかっているのかは分かるが、その解決（歩み寄り?）の道筋が示されていない（その品性?は、別途問われるべきではあるが!）?!そういうことですよ?!

D：ある意味そういうことですが、要は、「大変なのです！分かって下さい！
⇨何ともなりませんので、引き続き引き受けて下さい！」の平行線となっている?!しかも、それが、どっちが正しいかみたいな話となっている?!妙な言い方ですが、そこには、そこに浮遊している「被差別感、怨念」への深慮（敬意?）がない?!だから、“おきなわ”は、そこで苦悶している?!

（つづく）

⑫ 改めて、国（家）というものを、どのように考えていけばよいのか?!

I：ということで、最近（⑧～⑩）は（も？）、かなり舌足らずのものではありますが、要は、この間のウクライナの惨劇や中国の独裁体制化への動き、そして、一方では、沖縄と日本（本土）における選挙動向等を見ていて、改めて、「国（家）というものを、どのように考えていけばよいのか?」、そういうことを考えさせられたということですが、Dさん、その辺りについてはどうですか?!

D：直接的には、ある国（家）が、ある国（家）を、同胞を救うためにということで、軍事力を使って侵攻している（その領土を変えようとしている）?!あるいは、危険な基地の移設（除去）を巡って、国（政府）と地方（県）が真っ向から対立している（国（政府）の意向を、一方的に押し付けているように見える?）?!そういう中で、「国（家）」（政府自体ではない!）とは何なのか?そのあり方とはどうあればよいのか?そういうことを、改めて、我々に考えさせている?そういうことですよね?!

I：もちろん、そういうことですが、新型コロナウイルスによる世界的混乱、地球温暖化への全地球的対応、そういうことに関わる協力の必要、すなわち、あらゆることを超えた協力体制の構築、これが、全世界の喫緊の課題であるにも拘わらず、戦争（内紛を含む）とか、侵略（ましてや、それに逆行するような、極めて深刻な危険（核戦争?）も出来している?!）、あるいは国と県との、果てしない対立をしている場合ではないはずなのですが、実際は、そのようにはなっていない?!

D：本当に、これからどうなっていくのか?ということですが、一応、現在、全世界的に、（選挙における）「多数決と少数意見の尊重」ということで、「近代民主主義」が確立されているとは言えるのですが、それがうまく回っていない?そこに、いわゆる「覇権」あるいは「正邪」をめぐる、主権国家あるいは勢力の分断、二極化が進んでいる?人間（社会）の知恵として、幾多の経験（苦しみや悲しみ?）を経ながらここまでやってきたはずなのに、やはり不幸な対立が生まれている?!

I：ある意味では、それは、そうでしか、自ら（民族／国／地域）の主張や帰属意識が満たされない?!つまり、他方の勢力や集団（民族／国／地域）が、常にイニシアティブ（利益や富）を有するようなくみとなっている?!しかも、それが、多数決という手段で保障されている?!だから、いつまでたっ

ても、自分達の主張や利益につながらない?!少なくとも、その意識（感覚）は拭われない?!だから、反発する！あるいは、その枠組みから逸脱しようとする（ある意味自然である?）?!

D：構図としては、もちろんそうなのでしょうが、問題は、約束事を守らない、一方的に壊す（暴力や威嚇によって正当化しようとする!）人間（リーダー）や集団（国）が、あるきっかけがあれば（ここがミソである?）、一定数?出てくるということです!だから、「国連」や「裁判所」というような、その協議力や調整力によって、そのリスクを回避しようとするわけですが、そもそもそれが、ある一線を越えると、その力が無力化する（そこに、国連の解体・再編の契機も存在している?!）?!

I：まさに、最終的な、最大の意見・利害の調整機能がなければ、世界（地球）は滅ぶ（人類の滅亡?!）ということなのですよね?!以前は、自由主義（資本主義）対共産（社会）主義というような言い方もありましたが、単純に言えば、個人対集団（社会）、集団（社会／国）対集団（社会／国）の関係ということになりますが、それが、実際には幾重にも重なっている（まさに、県境／国境を越えて!）?!

D：しかも、そこに、民族・宗教・政治体制、そして、そこにある歴史的経緯（怨嗟や苦悩を伴った?）が絡まってくる?!だから、それらが、協力・調整の足枷となる?!さらには、DX化によって、より一層複雑化する（「多様性 Diversity」の無秩序化?強いて言えば、「雑居ビルの存在?」）?!これが、以前にも触れた、「統一性」と「多様性」の永遠の問題（ジレンマ?）であるが、これを、人類（or それぞれの国民）は、改めて、どのように克服していくのか?!そういうことなのでしょうね?!

（つづく）

⑬ 「近代」について?!それを目指して、日本が歩んできた道は間違っていない?!

I : もう随分前になりますが、ヤフーニュース(11/9(水)15:10 配信 Newsweek)で、<多くの先進国で近代や資本主義を否定することが一種の流行になっているが…>という記事を見ました。「この頃の日本は、気のめいることばかり。隣の中国のGDPは日本の4倍、韓国は1人当たりGDPで日本を近く抜き去る勢い。北朝鮮は日本の頭上にミサイルを飛ばして、『日本は目じゃない』と平然。国内は、アベノミクスの積み残しのゼロ金利にしがみついて、インフレの垂れ流し。自分たちはもう駄目なのか。いったい、何を指してどこに行こうとしているのか、さっぱり分からない。…」と、そういうことでした?!

D : 言われてみれば、そうかもしれませんね!それに加えて、新型コロナウイルスへの対応(右往左往?)、そして、「カネ」にまつわる、政治家や業界屋の恥辱等、数え上げれば、キリがない?!さらにまた、ロシアによるウクライナ侵攻、そして、それに伴う物価高騰、数々の余波・悪影響の到来?!本当に、この先、日本は、どうなっていくのだ?という懸念や不安は、募る一方ですよ?!

I : そんな中で、オリンピック・パラリンピックや世界バレー、そして、サッカー・ワールドカップでの日本代表の快挙とか、東の間の歓喜が入り込んでいるわけですが、全体としては、やはり暗い、出口の見えない社会の空気が漂っているということは確かですよ?!余計なことですが、そういう世相を反映してか?、学校の先生達は、心の病を募らせている?!もちろん、子ども達もそうですが(引きこもりや不登校は、過去最高となっている?)…!

D : 要は、みんなが、何か閉塞感、疲労感を抱いている?!そうとも言えるのかもしれない?!これが、明治維新後、日本が突き進んできた、いわゆる「近代化」の成れの果てだということであれば、何とも歯痒い、そして悔しい結果となりますよね?!

I : そういうことですよ?!この間、多くの人達の思い、苦悩が積み重なっているわけですが、何のために頑張ってきたのか、そして、尊い命を捧げてきたのか?そんなことさえ、思ったりもしますよね?!一言で言えば、多くの人の犠牲の上に、今の我々の生活が実現されている?!

D：もちろん、私達二人は、1950年代初頭の生まれですので、それ以前の人達の苦勞や苦惱は、直接には分からないわけですが（「貧乏」だけは、共有していた？）、幸せや豊かさを求めて、全員が歯を食いしばって頑張ってきた！それが、私達の「近代」であったわけですよ？！

I：だから、途中不幸な戦争があったとしても（ただし、単純な総括は慎まなければいけないが！）、「日本が歩んだ道は、決して間違っていない」?!そういうことになりますよね?!

D：しかも、東南アジア諸国を筆頭に、日本は、周辺諸国の經濟近代化にも大きな役割を果たしてきた。もっと自信を持ったらいい。日本の歩んできたコースは間違っていなかったし、いま歩んでいる方向も、間違っていない?!しかし、日本は変わった?!そして、今の世界で、多くの先進国は方向性を見失っている?!民主主義はポピュリズムに変質し、資本主義は格差を広げるばかり…?!

I：だから、「近代」や資本主義を否定することが、一種の流行ともなっている?!もったいない?!「近代」の産業革命が大きな中産階級を創出し、それが民主主義を支えてきたのであるが、格差も、カネでカネを生む金融資本主義が生むもので、近代の産業革命は、むしろ格差を縮小した！その近代を否定するのは、自分を足から食らっていくようなもの?!そういうことなのでしょうね?!

D：ただし、日本では、欧米諸国ほど、金融資本主義は育っていない。だから、青年世代に育つ健全な感覚に期待しよう！いつまでも、過去の栄光にしがみつくのはよそう！そういうことでもあろうかと思えます！とは言え、肝心の、その青年世代が見えない？否、危ういとも言える?!

(つづく)

⑭ 「ブルシット・ジョブ Bullshit Jobs」(クソどうでもいい仕事?!) について

I : これも、過日のネット情報からですが、「ブルシット・ジョブ Bullshit Jobs」(クソどうでもいい仕事) という言葉 (概念) が登場してきているようですね (D・グレーバー『ブルシット・ジョブークソどうでもいい仕事の理論』2018年) ! ということで、このことについて、少しここで話題にしたいと思いますが、どうですか?

D : もちろん、それは構いませんが、まずは、その定義みたいなものはどうなっているのですか? それがどうなっているのか分からないと、話のしようもないですからね?!

I : 確かに、その通りですね! 一応、そこでは、「被雇用者本人でさえ、その存在を正当化しがたいほど、完璧に無意味で、不必要で、有害でもある有償の雇用の形態である。とはいえ、その雇用条件の一環として、本人は、そうではないと取り繕わなければならないように感じている。」そういうことらしいですよ!

D : 分かりました! けど、その定義? は、言い回し (日本語訳) が、少し分かりづらくもありますね?! が、それはそうとして、例えば、どのような職種が、そのように指摘されているのですか?

I : もちろんこれも、多分? 訳語でしょうから少し違和感がありますが、その分類枠として、まず「取り巻き」ということがあり、受付係、管理アシスタント、ドアアテンダントなど、続いて「脅し屋」ということで、ロビイスト、顧問弁護士、テレマーケティング業者、広報スペシャリストなど、「尻ぬぐい」ということで、粗雑なコードを修復するプログラマー、バグが到着しない乗客を落ち着かせる航空会社のデスクスタッフなど、「書類穴埋め人」ということで、調査管理者、社内の雑誌ジャーナリスト、企業コンプライアンス担当者など、そして、「タスクマスター」として、中間管理職などが挙げられています!

D : なるほどね! 顧問弁護士、プログラマー、企業コンプライアンス担当者、さらには、中間管理職まで、その俎上に挙げられているのは、ちょっと意外ですが、何となく? その言わんとするところは、分かるような気がしますね?! 「取り巻き」「脅し屋」「尻ぬぐい」「書類穴埋め人」「タスクマスター」! よくぞ、そのような分類枠を考えだしたのですね?!

I：要は、彼らは、自らの「仕事」として、オリジナルな価値やモノ、あるいは有用な情報を生み出すことには直接関わっていない？言わば、「その周辺で」、それらを保護（補完）したり、知らせたり、調整したりすることが求められている？そういうことですかね?!だから、創造性や主体性、はたまたやりがいや生き甲斐が、それ自身からは得られない？そういうことですかね?!

D：おそらく、その表現からは、そのように言えますかね?!しかし、そうは言っても、彼らの仕事は、今や確実に必要となっており、とりわけ、有用な情報の提供や状況の全体把握、そして、調整は、必要不可欠なものとなっている?!その意味では、それらがなければ、全体がうまくいかない？効率よく、ヒト、モノ、カネ、情報が回らない?!そういうことになるのではないのでしょうか?!

I：ただし、そういうものは、ある意味誰にでもできるということで、常に使い回され（取り換えがきくということ!）、いつまで経っても、トップになることは出来ない?!また、そうした仕事は、AIを組み込んだロボット等に置き換わってしまう?!そんな感じも、しないわけではないですね?!

D：確かにね！事実、そんな状況が、各方面で、着実に進んでもいますよね！そんな中で、極端に言えば、「人間が仕事をつくるのか?」、それとも「仕事人間をつくるのか?」そういうことにもなっていくのかもしれない?!ただし、そこに、生き甲斐（やりがい）や喜びが、どのようにあるのか?それを、決して忘れてはいけませんよね?!それさえあれば…?!

(つづく)

⑮ 「偉人」について?! 「凄い人」ではあるが、一方で「普通の上等（人）」にも心が動く?!

I : ここで、突然、いわゆる「偉人」について語ってみたいと思いますが、どうですか?

D : 何でまた、突然、そうしたことを言い出すのですか? 何か、ありましたか? 先号 (14) で、「ブルシット・ジョブ Bullshit Jobs」(クソどうでもいい仕事) のことを話題にしたので、その反動みたいなものでもあるのでしょうか?! (笑)

I : いえ、特に理由はありませんが、ふと、そのようなことを、あなたと話してみたいと思っただけです! まあ、強いて言えば、我々も、かの「古希」を迎えているわけですので、人の一生とか、何が、その中で大切なのかといったようなことを、自分なりに考えてみたいということですかね?!

D : つまり、自分は、どういう「仕事」、どういう「生き方」をしてきた人間なのか? そういうことなのでしょうが、まさか、あなたも、その「偉人」の一人に加えてもらいたいとか、そういう、不埒なことを考えてのことではないですよ (結果的にはつながっている?) ?! (笑)

I : まさか? 当然じゃないですか! 否、ほんの少しは、そういうことを望んでいるのかもしれませんが (笑) ?? いやいやそれはともかく、私が、今何故、改めて「偉人」のことを取り上げたいのかは、強いて言えば、私が、これまで知っている「偉人」は、もちろん、数限りなくいるのですが、この数年間で、それまで、恥ずかしくもまったく知らなかった、また別の「偉人?」に、偶然にも出くわし、その生き様 (功績?) に衝撃を覚えたからでしょうね (そういう人達が、真の偉人とも?) ?!

D : 具体的には、どういう人達がいるのですか?

I : そうですね、例えば、「玉井金五郎」(その子「火野葦平」の小説/歌「花と龍」の主人公。北九州若松の沖仲仕の総元締め? / 故「中村哲」氏の祖父)、「松永安左エ門 (安左衛門)」(電力王。改めて、飛んでもない人である! 出身は、長崎県の離島、壱岐)、「頭山満」(福岡出身。国家主義者とか大アジア主義者とか書かれてあるが、かの孫文等、当時のアジア各地の民族独立運動家を支援したと言う。)、そういう人達ですかねえ (※ちなみに、彼らは、最近の、私の高校時代

の友人との交流から知り得た人達！)?!

D：ある意味、学校教育では教えてくれない？裏に隠れた偉人？そういう人達のようなですね?!そういう意味では、私の方は、かの「立花隆」氏も加えたいですね！何故なら、彼は、⑥で取り上げましたが、「病」と戦いながらも、最期まで「知の巨人」、そして「総合知」の求道者として一生を終えた?!一般に言う「偉人」とは少し違うかもしれませんが、彼もまたれっきとした偉人？であった?!

I：そうかもしれませんが、この歳になると、そういうダークな？、否々、他人がやらない様なことをして、自志を貫徹した人達に、どこかで惹かれている自分がある？そういうことでしょうかね?!

D：言い換えれば、これまでの、つまり、「表の、ある意味清らか、否、狭い？世界」である「教育（学）」の分野に身を置いてきた人間としては、彼らとはまったく無縁であった（知らなくても良かった？）自分自身が、少し恥ずかしい？そういうことでもあったのでしょうかね?!

I：確かに、そうなのかもしれませんね！その大半を、大学という、それこそ狭い、そして閉ざされた（だが、本人には、自由で、安定した生活が保障されていた？）社会（空間）で生きてこられた?!しかし、それとは無縁な、自分の知らない（知る努力をする必要もない？）「偉人？」が、外に数限りなくいたということに、この歳になってはじめて気がついた?!まさに、そういうことでしょうかね?!

D：よくわかりましたが、私は一方で、そうした偉人？に加えて、NPO等を立ち上げ、地道に活動している人達に心が動きます！自らの生活や業態維持に苦慮しながらも、子ども達や地域のために奮闘している、決して「偉人？」ではないが、名もなき「普通の上等（人）」（失礼かな？）に敬意を表したい！社会には、こういう人達の思いと行動が絶対に不可欠だと思うからです！

（つづく）

⑩ 古代における「偉人」について?!その偉人(英雄?神?)には、歴史が示(or 隠)されている?!

I : さて、ここでもまた、まったく突然となりますが、いわゆる古代史における「偉人?」については、どのように考えますか?例えば、かの「聖徳太子」とか、あるいは「大国主命」とか…

D : もちろん、時代時代には、生身の人間社会があったわけですから、富や豊かさ、あるいは安寧を求めて集団をまとめ、定住したり、移動したり、ある時は戦ったりして、まさに「英雄」として崇められ、後世に語り継がれてきた人達がいた(→「神」「命」「尊」)?!そういうことですよ?!

I : ただし、そうだとしても、今の我々には、そのことは、直接は分からないし(ウソかホントかも含めて!)、これからも知る由はない?!彼らは、いわゆる「史書」「(「記紀」や「風土記」等)や各地(神社や古老達)の「言い伝え」を通しての人物(神?)ですから、それ以上のことは何とも言えない?!しかし、それらの「解釈」や「遺物」等(遺跡からの発掘物等)から、それなりの類推は出来る?!

D : まあ、そういうことですが、改めて、そこで重要なのは、その人物(神?)のことを示すもの(場合によっては隠されたもの?)が、そこにはあるということ!だから、その真偽も含めて、いつ、どこで、誰が、どのような目的で、それをつくったのか、書いたのか?そこが問われる?!

I : しかし、そうではあっても、それらの、言わば「正当な解釈(「定説/通説」)」も、すべてが真実だということは、永遠に?言えない(たとえ専門の学会等のそれであっても!)?!ましてや、意図的な捏造や誤誘導も、生身の人間社会ではあり得ますからね(事実あったし、これからもある?)?!

D : 残念ながら、そういうことでもありますが、けれども、そこから何も進めないとも言えない?!実際、そうした確かな真実を求めて、人知れず(私が知らないだけ?)奮闘している人達がいる!最近、そういう人達のサイト(古代史自由サイト「Ameba」ブログ?)に入り込んで、頭の中がぐちゃぐちゃ(これまで知らなかった「神」がわんさという!→例えば「大幡主おおはたぬし命」※榎田神社の主祭神)?!

I : それは何ともお気の毒ですが、そうは言っても、ずーと傍からみていた

私からすれば、Dさんは、関裕二さんの論（膨大な著作！）を核に、兼川晋、藤井耕一郎さん等の所論を組み合わせて、それなりの解明枠（九州王朝と近畿王朝の相互連環説？）を模索されていたようにも思うのですが…?!

D：確かに、そうなのですが、そこに新たな要素を加える必要がある！それがないと、やはり全体的（整合的）な説明が出来ない?!それらのブログを見て、今は、そのように思い始めているのです！

I：改めて分かりましたが、実際それは、具体的には、どういうことなのですか？

D：端的には、九州（倭国）王朝と近畿（大和）王朝との関係を考える場合に、北部九州（倭奴国／伊都国／邪馬台国／木・基肆（貴？）国）だけではなく、中南部九州（狗奴国、熊襲^{→球磨曾於}）の関わりを加えなければいけない（かの「武内宿禰（諸族）」や「姫→紀氏」「鴨族」「隼人族」が絡んでいる？）?!

I：ひょっとしたら、九州中南部（南方系）は、通説に言う「蛮族」あるいは大和朝廷に従わなかった勢力ではなく、実は双方の王朝に関係がある?!否、むしろある時期、「倭国」全体を席卷（支配？）していた?!だから、ある意味正統な勢力（原皇統につながる?そのため、後の大和政権、つまり朝鮮半島からの「百濟」中心勢力から疎まれ、歴史の闇に葬られた?）?!そういうことも考えられる?!

D：まったくその通りです?!だから、先日の大発見（奈良県の「富雄丸山古墳／最大円墳、4世紀後半」）で、マスコミ等は騒いでいるようですが、そこから出た「蛇行剣」「鼉^だ龍文盾形銅鏡」（いずれも国内最大!）は、ひょっとしたら、「熊襲^{→球磨曾於}」あるいは「隼人」の偉人（英雄）と関係があるのかもしれない（根拠もある?）?!だから、これまでのように、「百濟」や「新羅」、そして身近な「伽耶」との関わりだけで、我が国の古代を捉えてはいけません!つまり、南方系（直接は「呉／越」）の要素も、改めて目配りをしなくてはならないということです（ある意味当然であるが!）?!

（つづく）

⑰「多様性（論）」の陥穽?!改めて、そこには「統一（統合）性（論）」との真摯な向き合いが必要?!

I：過日、テレビ（録画視聴）で、かの「ギフテッド」についての番組を見ました！折角、他人より優れた頭脳とか、技能を有しているのに、他ならぬそのことのために、孤立していったり、社会での「自己の居場所」が見つけられなかったり（ちょっと意外でしたが?）、というような話でした?!

D：いわゆる「IQ（知能指数）」が高い（高過ぎる?）人のことかと思いますが、ある意味皮肉なことに、それが原因で、他の「普通」の人との交わりが出来ず（息苦しくて?）、徐々にその関係から遠ざかって（離れて）いく?!そういうことでしたよね?!

I：まあ、流れとしては、そういうことでしたが、最後に、彼らが言っていたことは、「仲間」、言い換えれば、「自分のことを分かってくれる人」がいれば、生きていける！確か、そのようなことが、メッセージとしてありましたよね！何故か、グッときましたね！

D：これに関しては、例の「EQ（情動指数）」のことが頭を過りますが、いずれにしても、彼らの存在からも、まさしく現代社会の病理のあり様（「多様性」がもたらす混沌 or 苦悩?）が見えてくるようにも思いますね?!

I：私には、そうしたことは、つぶさには分かりませんが、一方で、その話は、近年大いに議論の俎上に上っている「LGBT（Q）」のこととも重なってくる?!これまで見ていなかった（抑圧されていた?）、「新たな（カミングアウトした?）」人々の存在（生き方）を、社会がどう受け止めればよいのかということですが…?!

D：まさに、そういうことかと思いますが、他方で、これまでの価値観や能力評価等に依拠してきた人々の側では、そこに焦りや不安が生じる?!だから、非難したり、攻撃したり、あるいは敢えて反対のことをアピールしたりする（婉曲的に?ある時は陰湿に?）?!私なりの言い方ですが、そこで生まれる（はずの?）、いい意味での「多様性論議」が出ていない?!端的には、一方の「統一性（この場合は「統合性」か?）」の視点が、全面的に「悪玉」「諸悪の根源」みたいに扱われている?!

I：その双方の「意義」、あるいは「共存?」の仕方みたいなものが論議の中

心とはならず（かの「同調圧力」だけがやり玉に挙げられ、それが論議の陥穽となっている？）、結局は、「Aか、Bか！そして、こちらの方がよい！」という言い方や価値観に、いつの間にならっているということですね？！

D：話は、かなり膨らんでいきますが、しかも、そこには、かの「グラデーション（段階的・漸次的分布）」がある！だから、常に、そのことを意識していなければ、社会や人間関係は成り立たない（危険でもある？）?!そういうことですよ?!例えば「国（家）」とか、「婚姻（制）」とか、「男女（制）」とかというものは（それがあから、一方で、ごたごたとか、不都合とかが生じてもくるのであるが！）、一つの「社会的知恵」として、我々人間社会には必要である！だから、「制度」として維持されていかなければならない（そこには、「統一／統合性」が保持されていなければならぬ！）！

I：つまり、「多様性」の主張ばかりでは、社会は成り立っていない?!ただし、一方の「統一（合）性」ばかりが主張されるなら、それもまた、おかしなことになる?!そういうことですよ?!ひょっとしたら、かの「ギフテッド」達は、そのことが分かっていた（少なくとも、感覚的には？）?!

D：ということで、これから本当に必要なことは、一方を否定したり、攻撃したり（ただ言葉尻を捕まえて非難したり、排斥したりするようなことも含めて！）、あるいは、上辺だけの「物わかりの良い振りをした」言動をすることではなく、「双方の要素が、何故必要なのか」を真摯に論じ合い、そこから解決策（着弾地？）を手繰り寄せる？それが大事なのではないかということです！本当の「仲間（理解者）」は、そうやって生まれてくるものではないでしょうか？！

（つづく）

⑩ 再び? 「国(家)」、そして「戦争」について?!

I : 最近、かのコロナ過に関わるニュースは遠景に退き (戻りつつある社会状況は頻繁に知らされていて、それでよいのであるが!)、国内的には、かなり元気の出る話題が増えていますよね (WBCでの日本選手の活躍が、それに拍車をかけた?!ただし、相変わらずの悲報やみっともない話題は尽きない?) !それでも、やはり気になるのは、もう一つのウクライナの悲劇ですね!長引くということは言われていますが、その惨状は、まさに想像を絶しています!本当に、心が痛みますよね!

D : まったくですね!しかも、最近時では、もう一つ、それと同じような事態が懸念されますよね?!

I : 台湾と中国のことかと思いますが、これらが輻輳し合って、全世界が、とんでもない事態に陥ってしまえば、さらに恐ろしいことになりますよね?考えるだけでも、ゾッとします!

D : 認めたくはないのですが、そういうことですよ!誠に残念ですが、人類は、そうした「国(家)」に関わる問題を、相変わらず解決出来ずにいる?!そういうようにも言えますね!

I : 様々な原因が、そこにはあると思いますが、そして、その中の幾つかは、ひょっとしたら永遠に排除することは出来ないのかもしれませんが(人間の欲望等?)、何とか、それを最小限に、そして、一つでも多く、いわゆる「話し合い」によって解決出来ないものなのですかね?!

D : もちろん、そこに「国連」という大きな枠組み(英知?)があるわけですが、実際には、それをもってしても如何ともしがたい事態が、今の現実には存在しているということでしょう(事実上は「安保理事会」の問題?)!ただ、今一つ、そこではっきりしていることは、その「国連」を構成している「国々」には、民族、宗教、政治信条、それ故の多様な価値観/体制志向をもつ人々(国民)が、混在し合っているということです(「グローバル化」が、それに拍車をかけている?)!

I : そして、今、そうした国々の一部では、暴力(武力)、あるいは一人の権力者の暴走によってしか、国(家)としての解決策を見出し切れていない?一方では、そういうことでもありますよね?!

D：単純に言えば、そういうことでもありますが、実は、そこに、他国への違法な侵略や占拠、あるいは内乱やクーデターによるものがあるということになれば、世界が困惑する?!だから、その事態の解消に、それぞれの国（国民）がどのように取り組んでいるか、そこが重要となってくる?!

I：ということは、今起きているような問題の構図を抱えている国々（国民）が、いかに逸早く、それに気がつき、暴力（武力）での衝突を避ける動きをつくっているかということが問われる?!そして、そのことも含めて、それへの意識・行動のレベルが、その国（国民）としての実力ということにもなる?そういうことですよ?!

D：そういうことですね！ただし、厄介なのは、場合によっては、そこに、国内の勢力（国民）が分裂し、しかも、その双方のどちらかを支援する国（々）が出来て、言わば、それらの「代理戦争」のような様相が出来上がるということですね！

I：したがって、今回の惨劇は、ある意味仕方がないとしても（慙愧に堪えないが、既に起きてしまっている！）、これから同じようなことを起こさないためには、まずは、その内部にいる人々（国民）が、自らの国の実情（問題の構図）について自覚し、その解決に向けて、どういう選択を行うかを、あくまでも、自らの意思で決定する！何よりも、それが必要である！そういうことですよ?!

D：まったくその通りかと思えます！だから、そのことが、自らの力で実現出来ない国（国民）、あるいは「親〇〇派」と呼ばれ、国を分断し（現在の自国を否定して?）、その「〇〇」との共闘や統合を求める人々は、その地にあ（い）るべきではない?!それが、「（主権）国家」の前提であり、互いに承認し合える担保でもある（そこに「民主主義」、そして、「選挙」の意味がある!）?!

（つづく）

⑱ チャットGPT！どこまで行くのだ？AIソフト（人工知能）！！

I：話はがらりと変わりますが、最近、これもまた恥ずかしながら、ある意味教育の世界を（も！）劇的に変えるかもしれない、「チャットGPT（Generative Pretrained Transformer：生成的で事前に教育された、機械学習モデル）」という言葉（存在）を、ネット上で知りました！それは、ネット上の大量のデータを収集・整理（学習）し、そこへ質問などを入力すると、回（解？）答を自動生成する、対話型のAIソフト（人工知能）だということですが（米新興企業「オープンAI」が開発）、教育（学校）現場では、宿題の回（解？）答や読書感想文も自動生成することが可能なため、児童生徒の学習状況に悪影響を及ぼす恐れもあるということらしいのです。

D：そのソフトのメカニズムについては、当然ながら、まったく分からないのですが、要は、教科書や先生の話を書かなくても（知らなくても？）、質問の文章さえ入力出来れば、その回（解？）答が得られる！だから、課題レポートの作成等、それが、可能となるということですね?!もしそうであれば、確かに、大変な状況となっていると言えますよね?!

I：そうなのです！まったく、そのようなことらしいのです！ただ、その元となる情報は、誰かが、あるいはどこかが、そのような使い方とは無関係に作成しているわけですから（基本的に想定していない!）、その人とか、その人の所属している組織や団体等の、いわゆる個人情報や著作権等が、危険に晒されることにもなりますよね?!一方では、そこが問題ともなる?!しかし、作業の軽便化等の、働き方改革への貢献も期待出来る（現に、行政内部の資料作成等に応用されている?）?!

D：まさに、光と影、双方があるということですね！しかも、そういうことは、あらゆる分野において起こり得るわけですが、こと教育の分野では、さらに複雑な問題が生じてきますよね?!例えば、容易く、回（解？）答が得られる反面、それが、果たして正しい回（解？）答なのかどうか分からない?!そして、その回（解？）答の作成者が誰なのかも分からない?!さらには、自らが創ったものではないので、その人の思考力低下にもつながる?!また、一方で、質問者（教師）の力量も問われる?!あるいは、そもそも、下手な課題提示（出題）も出来ない?!

I：そうなのです！まさに、いくつか読んだ関連記事ですが、そうした懸念や問題が指摘され、イタリアでは、3月に利用の一時禁止を発表したそう

です。とは言え、こうした流れは留まることはなく、他の企業も開発を進め、米グーグル社も、今年3月に「Bard (バード)」の一般公開を始めたということです！ということで、これから先、事態は、一体どうなっていくのでしょうか?!

D : もちろん、それについては、私達のような素人、そして高齢者には、その原理的なものが分からないわけですので、何とも言えませんが、このチャットGPTのプログラミング自体は、他ならぬ人間が行っているのですよね?!そこでは、その使用版図や統御(自制)機能は、どのように設定されているのでしょうか?それが分かれば、もう少し対応のし方も分かってくる?!

I : そうですよ! AI、それを活用したロボットもそうですが、数多の最先端の科学技術が、あらゆる面で、私達の日常生活に導入され、想像も出来ない位便利にはなっている?!こうした学習(自己形成?)機能をもったコンピュータが出現するということは、かなり以前から聞いていたことですが、当然?そういうことも含めて、日夜研究・開発されてきていると思いたいですよね?!

D : もちろん、そうなのですが、その一方で、私達が、これまで当たり前だと思ってきた常識や仕事の仕方、さらには人間関係等まで激変させている?!残念ながら、もうとっくに一線を退いている、この私達は、そのことを、静かに?傍から見つめ続けることしか出来ませんが、すべてが福音、そして、絶対にヒューマンなものであって欲しい!そう思うばかりですよ!

(つづく?)

⑳ 一つの締め（最後？）?!私達（I & D）が、ここで「喋り合うこと」（内なる対話）の意味?!

I：ということで、いつの間にか、この「内なる対話～『意味ある世間話』となるや、否や?!」も、早二十回目を迎えました！そこで、一応ここでは、ある意味では最後？となるかもしれませんが、その一つの締め？として、私 I と D さんが「喋り合うこと」、つまり、その形式（対話）について、少し話が出来ればと思っているのですが、いかがですか？

D：まあ、今更そんなことを言われても、読者？の方々は、もうとっくにそのからくり？は分かっているわけですので（最初にも、確かそのようなことは語っている？）、改めて話すことはないのですが、しかし、これが、ある意味では最後ということであれば、話は、少し変わってくるようにも思いますので、是非やってみましょう！

I：要は、ここでは、形の上では「対話」ということで、二人の人間が「喋り合う」ということになっているわけですが、結局は、それを、「堂本彰夫」という一人の人間が、文章として書き記しているわけですので、どう見ても、それは、彼の「書く」行為ということになりますよね！

D：もちろん、そういうことですが、しかし、読む側にとっては、あくまでも二人の喋り（対話？）ということですので、その三人目（作者？）のことは、ほとんど考えていない?!否、その三人目の人物が、どこかで遊んでいるようにも見える?!だから、一面では、腹立たしくもある?!

I：ここでは、そんなことはないと思いたいのですが、もし、そうであれば、私達二人（三人？）が、この対話形式（「内なる対話」）の意義を壊してしまっている?!そうとも言えるかもしれませんね?!

D：改めて振り返れば、まさにそうかもしれませんね?!とは言え、本当は、実際の I さんが、堂本さんというキャラ（ペンネーム）を創り、HP 上に載せる、ほとんどの文章（作品？）は、その堂本さんによるものということにして、自らの思いや思索の徒然を世に出してきた！そういうことですよ！それさえ分かってもらえれば、それはそれでよいのではないのでしょうか?!

I：もちろん、結論としてはそういうことですが、ただ、他の人と同様に、

一応は「公私の区別」をつけておきたかった?!そして、その「私」の部分で、言いたいことを自由に書きたかった（それまでにあった制約や付度対象から解放されて?!）?!否々、敢えてそうしなければならなかった理由などはなかったのでしょうか、おそらくそれは、彼の照れであり、自らの身の処し方（美学?）でもあった?!しかし、それはまた、一種の逃げ?でもあったのだろうかと思います?!

D：本人が、そういうのであれば、まさしくそうなのでしょうが、いずれにしても、一方で、私達（I & D）は、既にご承知の方も多いと思いますが、これまで「我（ら?）が精神こころの放浪たび」や「古代史問答」として、この形を採ってきたりもしていますよね（「教育協働への道」は違いますが?）！そして、そこでは、相対立する価値や論（考え方）を、出来るだけ分かり易くするために、素人（I）対専門家（D）というような素振り・スタンスで論じてもいますよね?!

I：それが成功していたかどうかは分かりませんが、実際、教育の分野以外は、ほとんど専門家でもない人間（実際のI）が、かなりの独りよがりがあったとしても、最後まで、別人としての二人（素人对専門家風?）の対話という形で語り切った?そこに意味がある?!そう思いませんか?

D：もちろん、私も、ここでは同感としか言いようがありませんが、この話はこれ位にして、またいつか、この「I & Dコンビ」で、自由で、怪しげな?対話を行ってみたいものですね!と言うのも、これは、ネット上で出くわしたのですが、「自分自身の知性に信を措くことこそ知的探究の出発点である」という言葉に、この歳にして、妙に得心してしまいました（我田引水?）！私達（二人?）の「喋り合う（内なる対話）」という行為は、まさにそれなのだと思いますからね!!

（了?）